

個別研究開発課題評価書

－平成29年度－

平成29年7月31日 国土交通省

国土交通省政策評価基本計画（平成26年3月28日策定）に基づき、個別研究開発課題についての事前評価を行った。本評価書は、行政機関が行う政策の評価に関する法律第10条の規定に基づき作成するものである。

1. 個別研究開発課題評価の概要について

個別研究開発課題評価は、研究開発に係る重点的・効率的な予算等の資源配分に反映するために行うものである。

国土交通省においては、研究開発機関等（国土技術政策総合研究所、国土地理院地理地殻活動研究センター、気象庁気象研究所、海上保安庁海洋情報部及び海上保安試験研究センターをいう。以下同じ。）が重点的に推進する個別研究開発課題及び本省又は外局から民間等に対して補助又は委託を行う個別研究開発課題のうち、新規課題として研究開発を開始しようとするものについて事前評価を、研究開発が終了したものについて終了時評価を、また、研究開発期間が5年以上の課題及び期間の定めのない課題については、3年程度を目安として中間評価を行うこととしている。評価は、研究開発機関等、本省又は外局が実施する。

（評価の観点、分析手法）

個別研究開発課題の評価にあたっては、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」（平成28年12月21日内閣総理大臣決定）を踏まえ、外部評価を活用しつつ、研究開発の特性に応じて、必要性、効率性、有効性の観点から総合的に評価する。

（第三者の知見活用）

評価にあたっては、その公正さを高めるため、個々の課題ごとに積極的に外部評価（評価実施主体にも被評価主体にも属さない者を評価者とする評価）を活用することとしている。外部評価においては、当該研究開発分野に精通している等、十分な評価能力を有する外部専門家により、研究開発の特性に応じた評価が行われている。

2. 今回の評価結果について

今回は、平成29年度予算配分に反映することを目的として、個別研究開発課題について事前評価を4件実施した。課題の一覧は別添1、評価結果は別添2のとおりである。

個々の課題ごとの外部評価の結果については、別添2の「外部評価の結果」の欄に記載のとおりである。今後とも、これらを踏まえ適切に個別研究開発課題の評価を実施することとしている。

対象研究開発課題一覧

○事前評価

| No. | 評 価 課 題 名 | ページ |
|-----|--|-----|
| 1) | 海洋分野の点検におけるドローン技術活用に関する研究 | 1 |
| 2) | 安全で効率的な航空機の冬季運航を目指した滑走路雪氷モニタリングシステムの技術開発 | 2 |
| 3) | 自律型海上輸送システムの技術コンセプトの開発 | 3 |
| 4) | 新型航空保冷コンテナの開発による内陸空路コールドチェーン網の構築 | 4 |

(事前評価)【No. 1】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|---------------------|--------------------------|-----|------|-------------------|----|----|-------|----------------|----|----|-------|------------------|----|----|-----|---------------|--------------|----|--------|-------------------|----|----|--------|--------------|-----|----|-------|----------------|--------|----|-------|---------------------|----|
| 研究開発課題名 | 海洋分野の点検におけるドローン技術活用に関する研究 | 担当課 (担当課長名) | 総合政策局技術政策課 (課長：吉元 博文) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発の概要 | <p>海洋分野特有の気象海象下におけるドローンを活用した船舶、洋上風車及び港湾施設の点検手法を確立し、点検事業者向けのガイドラインを策定するものである。</p> <p>【研究期間：平成 29～31 年度 研究費総額：約 60 百万円】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発の目的 (アウトプット指標、アウトカム指標) | <p>今後、船舶建造量の増大、洋上風力の普及促進及び港湾施設の老朽化等により、各種点検作業の増大が予想されるとともに、労働力不足が深刻化しつつある。このため、海洋分野特有の気象海象下における船舶、洋上風車及び港湾施設の点検について、目視確認の代替や支援ができるようドローンを活用した点検手法を確立し、点検事業者向けのガイドラインを策定する。</p> <p>本研究開発により、海洋分野における点検の安全性や作業効率性の向上を図る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性、効率性、有効性等の観点からの評価 | <p>【必要性】 本研究開発により、高所での人による近接目視点検作業が軽減され、海洋分野における点検の安全性や作業効率性の向上を図ることができることから、必要性の高い研究開発である。</p> <p>【効率性】 研究実施者が船舶検査や洋上風車の製品認証に関する豊富な知見やドローンの運用や利活用に関する豊富な研究実績を有していることから、効率的に成果を出すことが期待できる。</p> <p>【有効性】 本研究開発により、点検事業者用のドローンによる点検ガイドライン（適用可能範囲や運用手順）が策定され、将来的には法定検査等の一部に活用されることが期待できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 外部評価の結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・体制が明確であり、実現性の可能性が高い。 ・検査全体における目視検査のウエイト、本件による合理化等効果を初年度にある程度検討すべきである。 <p><外部評価委員会委員一覧>（平成 29 年 4 月 21 日、交通運輸技術開発推進委員会）</p> <table border="0"> <tr> <td>委員長</td> <td>高木 健</td> <td>東京大学大学院新領域創成科学研究科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>岩倉 成志</td> <td>芝浦工業大学工学部土木工学科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>上野 誠也</td> <td>横浜国立大学大学院環境情報研究院</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>島 裕</td> <td>一般財団法人日本経済研究所</td> <td>技術事業化支援センター長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>鈴木 宏二郎</td> <td>東京大学大学院新領域創成科学研究科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>田中 光太郎</td> <td>茨城大学工学部機械工学科</td> <td>准教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>引網 康暁</td> <td>三菱商事株式会社物流事業本部</td> <td>戦略企画室長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>平石 哲也</td> <td>京都大学防災研究所流域災害研究センター</td> <td>教授</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(五十音順 敬称略)</p> | | | 委員長 | 高木 健 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | 委員 | 岩倉 成志 | 芝浦工業大学工学部土木工学科 | 教授 | 委員 | 上野 誠也 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院 | 教授 | 委員 | 島 裕 | 一般財団法人日本経済研究所 | 技術事業化支援センター長 | 委員 | 鈴木 宏二郎 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | 委員 | 田中 光太郎 | 茨城大学工学部機械工学科 | 准教授 | 委員 | 引網 康暁 | 三菱商事株式会社物流事業本部 | 戦略企画室長 | 委員 | 平石 哲也 | 京都大学防災研究所流域災害研究センター | 教授 |
| 委員長 | 高木 健 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 岩倉 成志 | 芝浦工業大学工学部土木工学科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 上野 誠也 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 島 裕 | 一般財団法人日本経済研究所 | 技術事業化支援センター長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 鈴木 宏二郎 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 田中 光太郎 | 茨城大学工学部機械工学科 | 准教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 引網 康暁 | 三菱商事株式会社物流事業本部 | 戦略企画室長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 平石 哲也 | 京都大学防災研究所流域災害研究センター | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※研究費総額は現時点の予定であり、今後変わりうるものである。

(事前評価)【No. 2】

| | | | |
|-------------------------------|---|----------------|--------------------------|
| 研究開発課題名 | 安全で効率的な航空機の冬季運航を目指した滑走路雪氷モニタリングシステムの技術開発 | 担当課 (担当課長名) | 総合政策局技術政策課 (課長：吉元 博文) |
| 研究開発の概要 | AI・光センサの先進的な技術を融合させ、滑走路の雪氷状態（雪質、厚さ）をリアルタイムかつ高精度に把握するための滑走路雪氷モニタリングシステムの開発を行うものである。 【研究期間：平成29～31年度 研究費総額：約58百万円】 | | |
| 研究開発の目的 (アウトプット指標、アウトカム指標) | 滑走路面上の雪氷は、航空機の離発着に影響を与え、オーバーランなどによる事故や遅延・欠航による運航効率の低下を引き起こすなど問題となっている。このため、滑走路の雪氷状態（雪質、厚さ）をリアルタイムかつ高精度に把握するための滑走路雪氷モニタリングシステムの開発を行う。 本研究開発により、滑走路の閉鎖・除雪のタイミングを客観的に判断でき、航空機運航の安全性向上や空港運用（滑走路点検及び除雪作業）の効率化を図る。 | | |
| 必要性、効率性、有効性等の観点からの評価 | <p>【必要性】</p> <p>本研究開発により、雪氷滑走路に対する航空機運航の安全性向上や空港運用の効率化を図ることができるとともに、日本発の航空機運航関連技術として世界に発信できることから、必要性の高い研究開発である。</p> <p>【効率性】</p> <p>研究実施者が航空技術、光学及び雪氷学の知見を有しており、かつ産学官の連携により進められることから、効率的に成果を出すことが期待できる。</p> <p>【有効性】</p> <p>本研究開発により、滑走路面の雪氷状態が同定できるようになり、また同定結果が国際民間航空機関（ICAO）の滑走路状態コードにそのまま適用可能であることから、本研究開発の成果は有効に活用されることが期待できる。</p> | | |
| 外部評価の結果 | <p>・我が国の安全かつ安定的な航空システムの維持・向上に資するものである。</p> <p>・他分野への横展開も期待できると考えられるため、着実な進捗を目指してほしい。</p> <p><外部評価委員会委員一覧>（平成29年4月21日、交通運輸技術開発推進委員会）</p> <p>委員長 高木 健 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授</p> <p>委員 岩倉 成志 芝浦工業大学工学部土木工学科 教授</p> <p>委員 上野 誠也 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授</p> <p>委員 島 裕 一般財団法人日本経済研究所 技術事業化支援センター長</p> <p>委員 鈴木 宏二郎 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授</p> <p>委員 田中 光太郎 茨城大学工学部機械工学科 准教授</p> <p>委員 引網 康暁 三菱商事株式会社物流事業本部 戦略企画室長</p> <p>委員 平石 哲也 京都大学防災研究所流域災害研究センター 教授</p> <p style="text-align: right;">(五十音順 敬称略)</p> | | |

※研究費総額は現時点の予定であり、今後変わりうるものである。

(事前評価)【No. 3】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|---------------------|--------------------------|-----|------|-------------------|----|----|-------|----------------|----|----|-------|------------------|----|----|-----|---------------|--------------|----|--------|-------------------|----|----|--------|--------------|-----|----|-------|----------------|--------|----|-------|---------------------|----|
| 研究開発課題名 | 自律型海上輸送システムの技術コンセプトの開発 | 担当課 (担当課長名) | 総合政策局技術政策課 (課長：吉元 博文) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発の概要 | <p>船舶の自動・自律運航技術の導入による安心・安全で効率的な海上輸送システムの実現に向け、自動運航船の技術コンセプトを構築し、自律化レベルを具体化するとともに、必要となる技術の開発ロードマップを策定するものである。</p> <p>【研究期間：平成 29～31 年度 研究費総額：約 60 百万円】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発の目的 (アウトプット指標、アウトカム指標) | <p>海難事故の 8 割が人的要因に起因しており、先進的な情報通信技術の活用により高度に安全な航海と作業負担の軽減を実現したいとのニーズが強い。また、自律型海上システムの研究は欧州が先行しており、日本の海事産業の競争力低下が懸念されている。このため、自動運航船の技術コンセプトを構築し、自律化レベルを具体化するとともに、必要となる技術の開発ロードマップを策定する。</p> <p>本研究開発により、自動運航船による自律型海上システムの社会実装に向けた道筋が明確になり、実現に向けた国際基準の策定を進めるとともに必要となる技術開発・実証を促進する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性、効率性、有効性等の観点からの評価 | <p>【必要性】 本研究開発により、海上輸送の安全性確保や日本の海事産業の国際競争力の強化に貢献する自律型海上システムの開発ロードマップが明確になることから、必要性の高い研究開発である。</p> <p>【効率性】 研究実施者が船舶運航に豊富な知見、船舶のシステムインテグレータとしての豊富な経験、船舶の避航操船の研究等に豊富な知見を有しており、本研究に不可欠なステークホルダーにより構成されることから、効率的に成果を出すことが期待できる。</p> <p>【有効性】 本研究開発により、自動運航船による自律型海上システムの社会実装に向けた道筋が明確になり、実現に向けた開発・実証・実用化が促進されることが期待できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 外部評価の結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・自律運航船の実現は急務である。 ・自律運航船の技術コンセプトを形成するために必要な体制となっている。 ・具体的な研究成果を生み出すには、本研究終了後の戦略が必要となる。 <p><外部評価委員会委員一覧> (平成 29 年 4 月 21 日、交通運輸技術開発推進委員会)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">委員長</td> <td style="width: 30%;">高木 健</td> <td style="width: 30%;">東京大学大学院新領域創成科学研究科</td> <td style="width: 30%;">教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>岩倉 成志</td> <td>芝浦工業大学工学部土木工学科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>上野 誠也</td> <td>横浜国立大学大学院環境情報研究院</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>島 裕</td> <td>一般財団法人日本経済研究所</td> <td>技術事業化支援センター長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>鈴木 宏二郎</td> <td>東京大学大学院新領域創成科学研究科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>田中 光太郎</td> <td>茨城大学工学部機械工学科</td> <td>准教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>引網 康暁</td> <td>三菱商事株式会社物流事業本部</td> <td>戦略企画室長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>平石 哲也</td> <td>京都大学防災研究所流域災害研究センター</td> <td>教授</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(五十音順 敬称略)</p> | | | 委員長 | 高木 健 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | 委員 | 岩倉 成志 | 芝浦工業大学工学部土木工学科 | 教授 | 委員 | 上野 誠也 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院 | 教授 | 委員 | 島 裕 | 一般財団法人日本経済研究所 | 技術事業化支援センター長 | 委員 | 鈴木 宏二郎 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | 委員 | 田中 光太郎 | 茨城大学工学部機械工学科 | 准教授 | 委員 | 引網 康暁 | 三菱商事株式会社物流事業本部 | 戦略企画室長 | 委員 | 平石 哲也 | 京都大学防災研究所流域災害研究センター | 教授 |
| 委員長 | 高木 健 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 岩倉 成志 | 芝浦工業大学工学部土木工学科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 上野 誠也 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 島 裕 | 一般財団法人日本経済研究所 | 技術事業化支援センター長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 鈴木 宏二郎 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 田中 光太郎 | 茨城大学工学部機械工学科 | 准教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 引網 康暁 | 三菱商事株式会社物流事業本部 | 戦略企画室長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 平石 哲也 | 京都大学防災研究所流域災害研究センター | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※研究費総額は現時点の予定であり、今後変わりうるものである。

(事前評価)【No. 4】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---|---------------------|---------------------------|-----|------|-------------------|----|----|-------|----------------|----|----|-------|------------------|----|----|-----|---------------|--------------|----|--------|-------------------|----|----|--------|--------------|-----|----|-------|----------------|--------|----|-------|---------------------|----|
| 研究開発課題名 | 新型航空保冷コンテナの開発による 内陸空路コールドチェーン網の構築 | 担当課 (担当課長名) | 総合政策局技術政策課 (課長: 吉元 博文) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発の概要 | 蓄冷型冷凍装置や設定温度可変機能を搭載した国際規格の航空保冷コンテナ及び小型航空機用の航空保冷コンテナの開発を行うものである。 【研究期間: 平成 29~31 年度 研究費総額: 約 60 百万円】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発の目的 (アウトプット 指標、アウトカム 指標) | 我が国では平成 32 年までに農林水産物・食品の輸出額 1 兆円水準を目指しているが、農林水産物・食品の輸出には鮮度の保持が必要不可欠であり、「温度管理+スピード=鮮度」が重要な輸送のファクターとなっている。このため、定温輸送を可能とする蓄冷型冷凍装置を搭載した国産航空保冷コンテナの開発と国際認証の取得、及び小型航空機に搭載可能な航空保冷コンテナの開発を行う。 本研究開発により、国内から海外までの一貫したコールドチェーン物流の提供を可能とし、我が国農林水産物・食品の輸出拡大に資する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性、効率性、 有効性等の観点 からの評価 | <p>【必要性】</p> <p>本研究開発により、国内から海外までの一貫したコールドチェーン物流の提供を可能とし、我が国の農林水産物・食品の輸出促進に貢献できることから、必要性の高い研究開発である。</p> <p>【効率性】</p> <p>研究実施者が保冷コンテナに関する技術開発実績を有しており、また、開発段階より貨物利用運送事業者や航空会社と連携する体制となっていることから、効率的に成果を出すことが期待できる。</p> <p>【有効性】</p> <p>本研究開発により、保冷の必要な農林水産物・食品の輸出における品質担保と利便性向上が図られることから、本研究開発の成果は有効に活用されることが期待できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 外部評価の結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・陸上で商品化されている技術をベースとしているため、実用化の可能性が高い。 ・研究開発の成果を特定の者だけでなく広く普及させることが必要である。 <p><外部評価委員会委員一覧> (平成 29 年 4 月 21 日、交通運輸技術開発推進委員会)</p> <table border="0"> <tr> <td>委員長</td> <td>高木 健</td> <td>東京大学大学院新領域創成科学研究科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>岩倉 成志</td> <td>芝浦工業大学工学部土木工学科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>上野 誠也</td> <td>横浜国立大学大学院環境情報研究院</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>島 裕</td> <td>一般財団法人日本経済研究所</td> <td>技術事業化支援センター長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>鈴木 宏二郎</td> <td>東京大学大学院新領域創成科学研究科</td> <td>教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>田中 光太郎</td> <td>茨城大学工学部機械工学科</td> <td>准教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>引網 康暁</td> <td>三菱商事株式会社物流事業本部</td> <td>戦略企画室長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>平石 哲也</td> <td>京都大学防災研究所流域災害研究センター</td> <td>教授</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(五十音順 敬称略)</p> | | | 委員長 | 高木 健 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | 委員 | 岩倉 成志 | 芝浦工業大学工学部土木工学科 | 教授 | 委員 | 上野 誠也 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院 | 教授 | 委員 | 島 裕 | 一般財団法人日本経済研究所 | 技術事業化支援センター長 | 委員 | 鈴木 宏二郎 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | 委員 | 田中 光太郎 | 茨城大学工学部機械工学科 | 准教授 | 委員 | 引網 康暁 | 三菱商事株式会社物流事業本部 | 戦略企画室長 | 委員 | 平石 哲也 | 京都大学防災研究所流域災害研究センター | 教授 |
| 委員長 | 高木 健 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 岩倉 成志 | 芝浦工業大学工学部土木工学科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 上野 誠也 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 島 裕 | 一般財団法人日本経済研究所 | 技術事業化支援センター長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 鈴木 宏二郎 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 田中 光太郎 | 茨城大学工学部機械工学科 | 准教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 引網 康暁 | 三菱商事株式会社物流事業本部 | 戦略企画室長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 平石 哲也 | 京都大学防災研究所流域災害研究センター | 教授 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※研究費総額は現時点の予定であり、今後変わりうるものである。